

## 「婦人公論」 2006 年 9 月号

柴田倫世がこの人に聞く 時代を読むキーワード 10

ゲスト 藤井裕久(元大蔵大臣、元民主党幹事長)

### 【日銀総裁】

逮捕された村上世彰容疑者率いる村上ファンドに投資、「濡れ手で粟」の儲けを得たとして窮地に立たされている福井俊彦日銀総裁。「余人をもって代え難い」という政財界の声に守られて、いまだに居座りを決め込んでいる

### ● 用語解説【日銀総裁】

日本銀行は、1882 年に設立された認可法人で、日本の中央銀行。1998 年、日本銀行法の全面改正により、「専ら国家目的ノ達成ヲ使命トシテ運営セラルベシ」という戦時立法色を払拭、政府からの独立性が明確にされた。その機能は、①紙幣の発行②公定歩合操作、公開市場操作、支払準備操作などを行う金融政策の実施③国庫金の出納などを行う「政府の銀行」④国内金融秩序の安定を図る「銀行の銀行」—— などである。

この日銀を代表し、業務を総理する総裁は、衆参両院の同意を得て内閣が任命する。任期は 5 年で、法に

列挙された事由(禁固刑以上の刑に処せられた時など)を除いて、在任中にその意に反して解任されることはない。

「素朴な良識」を無視するな

柴田 日本銀行の福井俊彦総裁が、「村上ファンド」に 1000 万円を投資していたことが問題にされ、辞任要求の声が高まりました。ただ、追及はちょっと尻すぼみという感じも。

藤井 いやいや、このまま曖昧にしてしまったら、それこそ日銀の信用は地に落ちる。国内はもとより、海外マーケットなどからも、透明性、公正さはどうなっているんだと、ますます不審の目を向けられることになってしまいます。

柴田 小泉首相も経済界のトップも、福井さんを擁護しましたよね。「ルールは犯していない」と。

藤井　そもそも、その考え方がおかしい。事の本質は、「ルールの範囲内なのか否か」ではないのです。あのライブドア事件も村上ファンドの一件も、「法に触れなければ何をやってもいい」という発想の延長線上に起こったことを、もう忘れてしまったのでしょうか？百歩譲って、福井さんが“自由人”であるならば、合法的にどんな金儲けをしようが、あれこれ言われる筋合いはないかもしれませぬ。しかし、彼は違う。ある意味、日本の金融政策の最高責任者である日銀総裁というポストに選ばれた人間なのですから、ことお金に関しては、厳しく自らを律することが要求されて当然。それができなかつたのだから、職を辞すべきです。

柴田　「インサイダー疑惑」を指摘する人もいます。

藤井　そういう目で見られても仕方がないですよ。全般的な株価の下落が予想される「量的緩和政策の終結」を日銀が打ち出したのは、今年3月。その1ヶ月前に、彼は村上ファンドへの投資を解約しているわけですから。まあ、インサイダー取引うんぬんの前に、国民の多くに年に1%も利子を受け取れない状況を強いておいて、自分は裏で投資資金が倍以上に膨らむような「商品」に手を出していたということ自体、論理的に許されることじゃない。

柴田　海外の中央銀行の責任者は、そのあたり……。

藤井　リスク資産を買っているという話は、聞いたことがありませんね。例えばアメリカの中央銀行にあたる連邦準備制度理事会(FRB)の前議長グリーンズパンは、任期中、有価証券などをすべて預金に変えました。福井さんも、総裁に就任する前に身辺をきれいにしておくべきだった。

柴田　藤井さんは、福井さんのことを個人的によくご存じなのですか？

藤井　知っています。大蔵省に出向してきていましたから。歳は僕より4歳下。まあ、焼き鳥屋で酒を酌み交わすというほどまで親しくはなかったですが(笑)。能力的に、「日銀のプリンス」と称されるにふさわしい人物であることはたしか。この間の景気回復も、彼の手腕によるところ大でしょう。

柴田　しかし、そういう業績と、進退は別問題だと。

藤井　そう。まったくの別問題。彼を擁護する人たちは、「辞任要求は、ポピュリズム(大衆迎合)だ」などと言うのですが、とんでもない。「金融政策の舵取りをしている人間が、その影響下にある株式市場で“濡れ手で粟”の利益をむさぼるのはおかしいじゃないか」というのは、単なる庶民の“やっかみ”ではありません。国の金融制度の信用に関わる大問題を、素直に表現しているだけ。そういう庶民の素朴な良識を、為政者も経済人も正面から受け止めるべきです。

## 揺らぐ日銀の独立性

柴田 福井さん自身は、続投の意思を変えていません。

藤井 彼が続ければ続けるほど、日銀の独立性が損なわれる。僕が一番危惧するのはこの点なのです。政治家は、どうしても「選挙」とか「有権者」とかに縛られますから、経済政策についても視点が短期的なものになりやすい。しかし、日銀なかんずく総裁は、経論すれば総理大臣の意に沿わないことでも、それが日本経済の将来にとって正しいと判断できる政策であれば、肅々と実行しなければならないのです。それができるのは、独立性が保障されているからこそ。政治家や財界人に「助けて」もらった福井さんが、果たしてそういうスタンスに立ち続けることができるのでしょうか。

柴田 「三権分立」のように、日銀も独立した存在でなければならないのですね。

藤井 その通り。でも、独立性を条文に盛り込んだ「新日銀法」ができたのは、ごく最近、1998年のことなのです。その3年ほど前、僕が大蔵大臣だった時にも当時の三重野康総裁と組んでやろうと思ったんだけど、ワアワア騒いだら二人ともクビになっちゃって。(笑)

柴田 それまでの日銀法は、どういうものだったのですか？

藤井 できたのが42(昭和17)年。戦時立法ですよ。要は、国の言う通りに軍需産業にお金を出しなさいと。それを可能にする法律だった。これでは独立性もへったくれもないですから、法改正は懸案だったのです。

柴田 他国の中央銀行も、政府からは独立しているのですね。

藤井 一番高い独立性を確保しているのはドイツ。あの国は第一次世界大戦直後にもものすごいインフレに襲われて、貨幣価値が、なんと1兆分の1になってしまった。そんなことになったのは、政治のせいだということで、中央銀行を政府から完全に分離独立させたわけです。EU(欧州連合)も、このドイツの仕組みをもとにして、しっかりした独立性を持たせています。

柴田 各国ともいろんな経験を経て、中央銀行の独立性を確立させてきた。そんな大切な原則が脅かされるとしたら、由々しき事態。

藤井 もうひとつ許しがたい事実を付け加えると、福井さんが総裁になる1年前の2002年に、日銀が株を買えるようになったのです。この法改正自体が問題で、僕は本会議で小泉さんを追及しました。皆さんが使っている1万円札というのは、正確に言うと、日銀の資産を担保に発行されている小切手なのです。担保が安定しているからこそ、みんなが信頼してそれを流通させているのですが、もし株に変えた資産が暴落したらどうなりますか？ともあれ、そのことで株式市場にいつそう直接的で強大な影響力を有することになった中央銀行のボスが、個人的にも株の売買をやっていた。二重三重に犯罪的だといわざるをえない。

幕引きは許されない

柴田 役員の金融取引に関する内規の整備を求められていた日銀は、村上ファンドのような私募ファンドの保有を禁じるといった、特則を決めました。

藤井 「たしかにルール違反はしていないが、福井さんのやっていたことは日銀の役員として不適切な行為だった」と、当の日銀が認めたわけですから(笑)。内規をちゃんとさせるのは必要ですが、それでこの事態を幕引きするというのは、あってはならないことです。日銀が失った信頼は、その原因を作った当人が辞任しないかぎり、回復不能なのです。

柴田 それにしても、規則を厳しくしないと常識的なことが守れないというのは、ちょっと悲しいですね。

藤井 この前も財界人の集まりで言ったのですよ。「経済人も、倫理観がなさ過ぎる」と。そうしたら、「藤井さんのおっしゃっていることは、戦前の思想ではないか」という反応が返ってきました。「新興IT企業の社長」とかではないですよ。還暦を過ぎた、誰でも知っている大企業のトップたち。しかし、それは違うと。僕は、戦前の精神主義は大嫌いなんです。でも、商いを行ううえでの倫理観、例えば「嘘をつかない」とか、「自分だけの利益を考えない」とかいうのは、普遍的なものはずでしょう。この基本的な倫理観を欠いている人たちに対してどんなに罰則を強化したって、意味がない。抜け道なんて、いくらでもあるのですから。

柴田 人の知らない抜け道を見つけて、儲ける世界。

藤井 そうです、そうです。

柴田 「福井さんに代わる適切な人材がない」と言う声も、続投を望む人たちからは聞こえますね。

藤井 残念ながら、日銀内部には指導力があって、経済界の信頼感が厚くて、という適材は見当たりません。政治家がみんな小粒になってしまったのと同じ現象が、日銀内部でも起きている。最悪なのは、元財務事務次官である武藤敏郎副総裁の「昇格」。財務省出身者が総裁になれば、それこそ日銀の独立性を脅かしかねない。日銀が福井さんを擁護するのは、それを恐れてのことかもしれません。

柴田 そうすると、外部から招聘するということになりますね。

藤井 民間といっても、産業人はいけません。日銀は、産業界とも一線を引いた存在でなければなりませんから。やはり金融界の人間がベストなのですが、金融庁の処分などが相次いだこともあり、ここも人材不足。

柴田 うーん、八方ふさがり。

藤井 いや、適任者がまったくいないということではないのです。第一、「後釜がない」ことを理由に、総裁として不適格な人物を居座らせるというのは、言語道断。まず福井さんが辞意を明確にして、後任はそれから考えればいいこと。

柴田 1日も早く、「正常化」しないといけませんね。

藤井 ただ、今回の件で一つだけ収穫がありました。

柴田 それは？

藤井 福井さんのやっていたことが世の中に明らかになったこと。昔だったら、表には出なかったかもしれない。「情報公開」がいかに重要かということです。その点では、健全な世の中になりつつある。あれ、一本の記事をもとに、われわれ民主党の1年生議員が恐る恐る質問したのが端緒だったのですよ。マスコミの役割も、とっても大事。

柴田 私たちの伝える側も、そのことを肝に銘じなければいけませんね。